

海洋ゴミ問題のアクティビティ ～三河湾海洋ゴミ調査帆船&UMIGOMIART～ (海と日本2021) 報告書・写真・アンケート抜粋

1, 三河湾海洋ゴミ調査帆船ワークショップの実施

6/14 スタッフ・ボランティア視察およびクルー研修 (1日・佐久島)

スタッフおよびボランティア11名参加。今回のワークショップのアイデア出し・現地にて危険場所の確認・ヨットの基本的なクルーワークについての研修を実施した。



7/24 美浜町少年自然の家コラボ夏休みの自由研究企画 (半日・河和沖)

小学生14名参加(引率大人2名)。特設企画であったため、マイクロプラスチックへの関心の高い児童が多かった。海洋ゴミ拾い、セーリング体験、顕微鏡でのプランクトンおよびマイクロプラスチックの観察を実施。海上保安庁の職員が出港前にライフジャケットの着用の必要性について説明。名古屋市内の児童が多く、海のゴミを初めて本当に見た、という児童もいた。



7/25.26 名古屋市私塾コラボ企画 (1泊2日・佐久島)

小学生15名参加(引率大人2名)。遠方からの参加につき1泊2日を要望されての実施。子どもたちは予定されたプログラム以外にも、佐久島散策や、朝釣りを楽しみ、より濃厚な海体験の時間となった。ただ、岩場で足を切る児童がいて、今後の安全対策の重要性を感じる。



8/1 スタッフ・ボランティア安全講習受講（1日・河和海水浴場）

7/25.26の実施の反省をもとに急遽設定。スタッフおよびボランティア9名が日本ライフセービング協会の資格「ウォーターセーフティ」を取得。海洋プログラムを子ども向けに実施する上での安全指導を受ける。



8/10 愛知県内教員限定企画（1日・佐久島）

愛知県内の教員7名参加。マイクロプラスチックという言葉を知らない教員も存在。環境学習に現場はなかなか手が回らないので、プログラムとして用意されているのは大変有り難いと評価された。島散策の時間が短すぎるので、せっかく佐久島での実施なら1泊2日の方が良いのでは、と意見をもらう。



8/24 高浜小学校親の会コラボ企画①（1日・佐久島）

8/25 高浜小学校親の会コラボ企画②（1日・佐久島）

2日に分けて開催。高浜小学校の児童らの36名参加（引率大人3名）。学校主催はコロナ禍のため難しいが、親の会主催なら、ということで企画が実現した。海上保安庁の職員が出港前にライフジャケットの着用の必要性について説明。児童らのアンケートは満足度90%以上。着替えの関係のアナウンスもしたので、事前に下見がしたかったと意見をもらう。



8/28 愛知県内一般公募企画（1日・佐久島）

愛知県内の親子5組参加。



9/11 愛知県内フリースクールコラボ企画（1日・佐久島）

愛知県内のフリースクールの児童ら13名（引率大人3名）参加。
個別の支援の必要な児童が多く、洋上や海岸での行動に一層の注意が必要であった。



9/25 愛知県内一般公募企画（1日・佐久島）

愛知県内の親子4組参加。



10/9 愛知県内一般公募企画（1日・佐久島）

愛知県内の親子4組参加。



10/24 一般公募企画（半日・河和沖）

愛知県内の児童18名参加。海岸清掃ののちに、セーリング体験。
プランクトン観察。保護者は、海岸清掃のみ参加。



10/30 美浜町内英語塾コラボ企画（半日・河和沖）

美浜町内の児童17名参加（引率1名）。海岸清掃ののちに、セーリング体験。プランクトン観察。



2, 海岸清掃×UMIGOMIARTの実施

実施日 5/30, 6/12, 7/10, 8/14, 9/11, 10/9, 11/13, 12/11, 1/8, 2/12, 3/12, 特設野間小学校3/10

毎月第2土曜と決め、広報した。毎月来る家族もいて、活動が定着した。

野間小学校では、総合的な学習の時間にて「SDGs」をテーマに学習していたため「海の豊かさを守ろう」の項目にて海岸清掃およびUMIGOMIARTを実施した。



▲ 保護されていない通信 | aichi-mihama.ed.jp/nomaes/2022/03/22/マイクロプラスチックアート/

令和3年度卒業式

終了式 お礼の会

マイクロプラスチックアート

開催日: 2022年3月22日 作成者: 野間小学校



3月22日（火）3年生が、総合的な学習で、「マイクロプラスチックアート」に挑戦しました。海外清掃で回収したごみをもとに、子供たちが思い思いにデザインをしました。学習の思い出とするだけでなく、これからもごみを減らせるようにという思いを込めて作りました。

カテゴリ: [おもちゃ](#) [ゲーム](#) [アート](#)

3, その他

・愛知教育大学教育学部の学生の卒業研究テーマに取り上げられる

今回のプログラム全体を愛知教育大学の学生が取材・研究をし、より良いプロモーションについて模索してくれた。



・西尾市の壺武工業所との海洋ゴミアップサイクルのコラボが始まる

今回のプログラムがきっかけで、西尾市のプラスチックメーカーとの海ゴミのアップサイクルの共同研究がスタートした。現在拾ったペットボトルキャップを集めている。



4, 参加者アンケート

アンケートはその都度、海と日本2021公式のWEBでのアンケートをお願いした。難しいと言われた団体から手書きの感想をもらったので抜粋する。

海にゴミが落ちていて生き物がかわいそう
だと思いました。

このたいやんをきて、海かよごれてし
まっているということが分かり、さっさと
だなどと思いました。家にかえたらゴミ
の分別をやめたいです。

マイクロプラスチックという、5mm以下のプラスチック、
目には見えないプラスチックが海に落ちた。
船のりかちでも乗して、水で
働きたいと思った。
ペットボトルの口でゴミや油が使えるのを知った

ヨット体験がとても楽しかったです。
海上保安官の人が教えてくれた
ライフジャケットをきることを守る
うと思います。

ヨットはよく風があたってエコにひたりだとおもいました。